

E. M. フォースター作「ウラコット博士」における^{the Great War}戦争と「病」

高坂徳子

本発表においては、E. M. フォースター (E. M. Forster, 1879-1970) による短篇小説「ウラコット博士」(“Dr Woolacott,” 1972) を取り上げ、主人公の青年クレサント (Clesant) と若者の同性愛の成就を通して、第一次世界大戦と同性愛との関係について考察を述べる。

本作は 1927 年に執筆され、後に『永遠の命と他の短篇集』(*The Life to Come and Other Stories*, 1972) に所収された。慢性の病を患う地主の青年クレサントは、主治医であるウラコット博士の「何でも少しずつ」との指示を忠実に守っていた。ある日クレサントは偶然彼の敷地を歩いていた若者に声をかけ、自宅の部屋に通す。農業の道を志す若者はかつて兵士として戦った塹壕戦で重傷を負うが、運ばれた病院でウラコット博士の治療を拒否した。彼はなぜ医師の治療を拒否したのだろうか。

二人の親密さが増すにつれてクレサントの病状は悪化の一途をたどる。このようなクレサントの病とは何であるのだろうか。最後に彼はウラコット博士の指示に背き、それまで全てに中途半端であったことに反して若者との同性愛を成就させる。その時クレサントは死ぬ。二人の同性愛の成就を通して、本作の社会的背景としての第一次世界大戦と医学の果たした役割について論じたい。

Instagram を取り入れたアクティブラーニング：
TOEIC Test Part1 写真描写問題の問題作成授業の報告

松本恵美子

本発表は写真投稿サイト Instagram をアクティブラーニングの授業に取り入れた授業実践報告である。大学の国際教養学部の 1 年次の授業で資格試験対策を行い、実際に 12 月に資格試験を実施した後に 1 年間の総括として Instagram を用いて TOEIC Test Part1 写真描写問題の問題作成をする授業を行った。クラスの規模は 25 人から 30 人で男女ほぼ同数である。

SNS を活用した授業実践の過去の日本での研究は少ない。例えば Facebook を英語のライティングの授業で利用した例や、課外活動で利用した授業報告が見られるが、写真投稿サイトの Instagram に関しては 2017 年に大学の家政学の授業で使用した例があるものの、英語の授業活動で Instagram を扱った例は見られない。

大学生の年齢の SNS の利用状況を見ると、数年前と比較し Facebook の登録者が減少し、Instagram の登録者が圧倒的に増えている。学生にその理由を直接聞いたところ、「Facebook は年配の人が登録しているから」との意見があった。本研究では筆者が実際

に Instagram に登録し、学生と対等なフォロワーになったことで学生に親近感を与え、TOEIC の写真描写問題を学生に作成させることで、Instagram の「写真」を中心としたコミュニケーションに慣れた学生が積極的に授業に参加することを促した。

文学的絵葉書——英語学者岡倉由三郎が受け取った絵はがき

小林英美

日本美術の指導者であった岡倉天心研究の拠点である茨城大学五浦美術文化研究所において、英語学者の岡倉由三郎（1868-1936）に関する葉書数点が新たに収蔵された。国内外の知人からの多様な絵葉書であるが、たとえば英文学者の齋藤勇（1887-1982）が送ったものもあった。この絵葉書群で殊に興味深いものを抽出・紹介しながら考察を加える。